

編集後記

最近、ゼネコン他社の機電職員の方と話す(呑む)機会が多く、年齢に近い事もあって、ついつい多目に呑んでしまいます。酒の肴は、お互いの会社への不満というか愚痴である場合が必然で、ある意味、これに優る肴は無いかと存じます。聴けば聴くほど「わかるわかる」「だよね」となるわけですが、こういった情報交換の場に出てくる、各社の生き残り戦略の中で筆頭にくるのが「技術」である事は間違い無いようです。

当社でも二言目には「技術」「技術」と耳タコ状態なのですが、「技術」といっても、いろいろな意味が込められていまして、一つは「新技術、独自技術」であり、また、もう一つは「技術の伝承」という意味合いが大きいかと思えます。

前者の「新技術、独自技術」は、あくまで請負業である業界にとって必ずしも切り札になり難い面もあり、お金もかかるわけで、かなりのジレンマを感じながらも日々格闘している次第です。ここ最近、編集委員としてネタ探しをしていると、特にゼネコン系が若干ガードが固い印象を受けます。忙しいという事が一番でしょうが、「独自技術」という点も多少は影響しているのかなと感じています。

もう一つの「技術の伝承」については、これぞ死活問題です。特に建設業にとって不遇な、ここ20年間の若年層不足と、熟練職員の高齢化が相まって、日々、極当たり前の「技術」達が消失している状況でしょう。本来「技術の伝承」という物は「経験の共有」から得られる物だと思われれます。「マニュアル」「資料」で伝えざるは不可能です。熟練職員の方々は、数多くの現場経験の中から、質の高い「経験」に裏打ちされた「技術」を習得されて来たわけですが、現在、工事量も減り、歪な職員構成の中だと、若手職員に「高質な経験」をつんでもらうのは困難で、本当に頭の痛い問題です。

さて、先ほど「マニュアル」「資料」の有用性について疑問が有るような書き方をしましたが、否定しているわけではありません。当協会誌の様な技術報文集は、自社以外の技術的な取組みについて知る事ができる貴重な「資料」の一つです。また、「技術報文」を投稿するという行為自体「高質な経験」となりうると考えます。若い方々には積極的にトライして欲しいと思います。私自身も、正直、業務に忙殺される中での編集委員なので、楽ではありませんが、「経験」の糧になればとも考えています。

最後になりますが、お忙しい中ご執筆いただきました皆様には深く御礼申し上げます。(京免・赤井)

12月号「最先端の高度な土木技術・建設技術の開発と実用化特集」予告

- ・公共工事等における新技術活用システム (NETIS) の改訂
- ・新技術活用システム (NETIS) の活用状況
- ・土木研究所における最近の研究活動
- ・最近の建築研究所における研究開発の取組と成果
- ・二重回転カッター方式による大口径シールドの高速掘進技術の開発
- ・ダム再開発工事における上流仮締切工の大幅効率化を実現 浮体式仮締切工法
- ・鉄道建設分野における技術開発と実用化
- ・自動車走行燃費の改善に向けたアスファルト舗装技術の開発
- ・高波から国土を守る新型離岸堤 斜面スリット型透過式ケーソン S-VHS 工法
- ・時速 50 km でトンネル空洞探査
- ・高速走行型非接触レーダーによるトンネル覆工巻厚・空洞探査を実現: MIMM-R
- ・ビルをぶら下げる「塔頂免震構造」の開発
- ・水の凍結膨張圧を利用した「コンクリート構造物破壊技術」
- ・災害応急復旧用無線遠隔操縦ロボットの開発
- ・拮抗駆動式ゴム人工筋肉によるパラレルリンク型ロボットの有効性
- ・荒掘削から整地まで自動アシスト制御する ICT 油圧ショベル PC200i-10/PC200LCi-10
- ・電動遠隔解体機

機関誌編集委員会

編集顧問

今岡 亮司	加納研之助
後藤 勇	佐野 正道
新開 節治	関 克己
高田 邦彦	田中 康之
塚原 重美	中岡 智信
中島 英輔	橋元 和男
本田 宜史	渡邊 和夫

編集委員長

田中 康順	鹿島道路(株)
-------	---------

編集委員

吉田 潔	国土交通省
三浦 弘喜	農林水産省
伊藤 健一	(独)鉄道・運輸機構
篠原 望	鹿島建設(株)
立石 洋二	大成建設(株)
藤内 隆	清水建設(株)
赤井 亮太	(株)大林組
久保 隆道	(株)中工務店
安川 良博	(株)熊谷組
川西 健之	(株)奥村組
京免 継彦	佐藤工業(株)
岡田 英明	五洋建設(株)
齋藤 琢	東亜建設工業(株)
赤神 元英	日本国土開発(株)
相田 尚	(株)NIPPO
岡本 直樹	山崎建設(株)
太田 順子	コマツ
大塚 清伸	キャタピラー・ジャパン(株)
小倉 弘	日立建機(株)
上田 哲司	コベルコ建機(株)
石倉 武久	住友建機(株)
和田 一知	(株)KCM
江本 平	範多機械(株)
竹本 憲充	施工技術総合研究所

事務局

日本建設機械施工協会

建設機械施工

第66巻第11号(2014年11月号)(通巻777号)

Vol.66 No.11 November 2014

2014(平成26)年11月20日印刷

2014(平成26)年11月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 辻 靖三

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 一般社団法人 日本建設機械施工協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支	〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8	電話 (011) 231-4428
東北支	〒980-0802 仙台市青葉区二丁目16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1	電話 (025) 280-0128
中部支	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-17-10	電話 (052) 962-2394
関西支	〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支	〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22	電話 (082) 221-6841
四国支	〒760-0066 高松市福岡町3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-4-30	電話 (092) 436-3322

本誌上への広告は  有限会社 サンタナ アートワークス までお申し込み、お問い合わせ下さい。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-21-5 井手口ビル4F TEL: 03-3664-0118 FAX: 03-3664-0138

E-mail: san-mich@zam.att.ne.jp 担当: 田中